

登録有形文化財（建造物）

那波紙店

- 1 対 象 那波紙店 てんぼけんしゆおく 店舗兼主屋、ぶんこくら 文庫蔵、しょうひんぐら 商品蔵、むぐら 向かい蔵、ごごうそうこ 五号倉庫
- 2 所 在 地 秋田県秋田市大町4-219ほか
- 3 所 有 者 那波伊四郎・那波百合子
- 4 登 録 基 準 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの
- 5 説 明

那波紙店は、秋田駅の南西側にある秋田市大町地区に位置する。明治11年（1878）に初代那波伊四郎氏が、秋田藩御用聞商人の那波商店から分家して現在地に創業した。以前は茶・砂糖などの販売が中心であったが、明治19年（1886）頃から和紙を中心にした商売を始め、昭和26年（1951）に株式会社となった。

藩政期における商人町の中心であった大町地区に所在し、店舗兼主屋の屋根形式や意匠は、藩政期の秋田の典型的な町家形式を色濃く残している。

【店舗兼主屋】

[明治中期、木造一部2階建、切妻造妻入、鉄板葺、建築面積：463㎡]

敷地西側に位置する。南側のトオリ（土間）に沿ってオエと台所が並び、その北側に平行してへヤ・仏間がある。トオリは主屋の奥にある蔵前の土間に続く。仏間の東には、大正年間に増築された新座敷、控間、髪結び部屋がある。外観は、切妻造妻入りの屋根に化粧梁と化粧束を飾る外観や、コミセと呼ばれる1階部分の庇を通りに張り出すなど典型的な秋田の町家形式を伝えている。特に2階の屋根形式は、明治時代に建てられた近隣の町家に比べ勾配がゆるく、江戸時代の町家形式を受け継いでいる。

【文庫蔵】

[明治中期、土蔵造2階建、切妻造妻入、鉄板葺、建築面積：106㎡]

敷地北東側に位置する。主屋のトオリからくの字型に続く蔵前の土間の先に配置され、内蔵形式となっている。内部は、床は板張り、天井は根太天井、柱間は貫で支える重厚な造りとなっている。小屋組は和小屋組で、妻側は棟を直接受ける梁を3本の束で支える束立て形式で、桁行中央部は、大梁の上に梁を直に重ね、その上に棟木を直接受ける敷梁を乗せている。秋田でよく見られる、束を使わない小屋組形式である。

【商品蔵】

[明治30年（1897）、土蔵造2階建、切妻造妻入、瓦葺、建築面積：157㎡]

敷地東側に位置する。主屋のトオリをまっすぐ進んだ突き当たりに配置され、内蔵形式となっている。内部は、床は板張り、天井は根太天井、柱間は貫と筋交いで支えている。和小屋組の小屋組は、妻側は小屋梁に束を立てる三重梁形式で、最上部の小屋梁で直に棟木を受けている。桁行中央部は束立て二重梁形式で、最上部の小屋梁の上に舟肘木を平行に寄せ、その舟肘木が棟木を受けている。外観は黒漆喰で塗り込められた重厚な印象である。

【向かい蔵】

[明治中期、土蔵造2階建、切妻造妻入、鉄板葺、建築面積：70㎡]

主屋南側の道路を挟んで南側に位置する。覆い屋が架けられた内蔵形式となっている。隣接する事務所の場所には当初那波伊四郎家の住宅が建っていたことから、その住宅の内蔵だったと考えられる。内部は、床は板張り、天井は根太天井、柱間は貫で支えている。和小屋組の小屋組は、大きな曲がり梁に束を立てる二重梁形式で、最上部の小屋梁で直に棟木を受けている。

【五号倉庫】

[昭和13年(1938)、木造2階建、切妻造妻入、鉄板葺、建築面積：111㎡]

主屋西側の道路を挟んで南西の敷地に位置する。創建当初は同じような倉庫がいくつか並んで建っていたため、五号倉庫だけしか現存していない今も、当時の呼び名で呼ばれている。外観は、出入り口のある東側の外壁は看板建築で、御影石洗い出し仕上げ、東側の外壁以外は色モルタル仕上げである。



店舗兼主屋



向かい蔵